

【外部評価の観点】
 優：目標を達成し、十分な取組がなされている。 可：取組はできているが、目標達成が不十分である。
 良：目標を達成し、取組がほぼできている。 不可：成果水準に及ばず改善を要する。

番号	重点目標	評価指標	実績	自己評価	主な活動成果	次年度に向けて(校長)	外部評価
1	多角的な学生募集活動の推進による入学者の増加(教務課、養成部、研修部)	◎令和8年度入学試験合格者数 40名 【R7実績：29名(C)、R6実績：39名(A)】	26名	D	・農業関係高校との連携強化(連携会議、高校訪問、オープンキャンパス、体験カレッジ、職員間の交流促進)、1・2年生を対象とした学校訪問、体験研修の受入れを実施した。 ・推薦入試の試験科目で数学を廃止し、受験しやすい環境を整えた。	・例年行ってきた活動は継続できたものの、目標達成には至らなかった。 ・既卒者からの問い合わせ随時あるため、受験手続のデジタル化等の事務手続きの改善を図る必要がある。 ・令和9年度から新カリキュラムに移行する予定であり、環境整備も併せて、アピールしていくことが必要。	可
		◎受験を検討するにあたり、本校のホームページが、「とても参考になった」という受験生が90%以上。 ※受験生は推薦・一次募集受験者を対象とする。 【R7から目標設定】	4.4%	D	・本校のホームページが「とても参考になった」という受験生は4.4%。「参考になった」を含めると8.9%であった。 ・来訪者アンケートの実施は3年目となるが、ホームページ(HP)の認知度は依然低い。しかしながら、オープンキャンパス、体験カレッジ参加者の認知度は60%であった。 ・HPの更新回数は目標の170回に対し、実績は162回で、目標に至っていない。 ・ホームページへのアクセス履歴を集約した結果、8月と11月が多くなった。	・農大を訪問した高校生のSNS利用はInstagramが39%と最も高いため、Instagramの開設と情報発信を検討していく。 ・併せてInstagramからホームページへ誘導する検討を行う。 ・9月と11月にアクセスが多いことから、その時期に集中してHP更新を行う。	
		○マスコミ等を通じたPR回数 20回 【R6実績：16回(C)、R5実績：23回(A)】	21回	B	・飛雲祭の宣伝活動に学生たち自身で、テレビ局などに連絡して出演。 ・今年度もイズミグループにおいて、本校出荷牛の店舗での販売会へとつなげ、学生が各種マスコミに出演した。	・学生自身が時間調整や出演することは、良い経験につながった。今後も継続したい。 ・新たに、就職情報誌、バス車内への掲載、テレビでのPRを予定している。また東京の飲食店との連携、市内ホテルとの連携の検討しており、これらの取り組みをマスコミを通じたPRしていく。	
2	実践教育による、社会に役立つ人材の育成(養成部)	◎日本農業技術検定2級合格者(割合%) 2年生取得者 40%以上(15名) 【R6実績：41%(15名)(A)、R5実績：16%(6名)(D)】	39.5%(14名)	B	・2年生に対しては、1年生から継続して実施した過去問を中心とした小テスト等の取組により、2級合格者が14名となった。	・進路決定以降の試験では学生のモチベーションが低下する。このため、2年生の7月試験での合格を目指し、1年生から継続した受験対策を行う。	優
		○日本農業技術検定2級全国平均点以上達成者(割合%) 1年生全国平均点以上の学生数30%以上 【R6実績：36%(B)、R5実績：42%(A)】	34.6%	B	・1年生に対しては、専門科目講義や実習等により知識レベルの向上を目指した結果、12月試験で全国平均点以上となった者が9名となった。また、12月試験までの2級合格者は5名となった。	・1年生への対策として、普通高校等の出身者を中心とした3級未合格者に対し、7月試験での3級受験を促す。さらに進路の決定時期が早まっている状況に対応して、1年次の12月試験での合格に向けた対策を強化する。	
		○プロジェクト学習の内容充実 一定水準(70点)以上の発表80%以上 【R6実績：100%(A)、R5実績：95%(A)】	97.4%	A	・課題設定、中間検討会、校内予選会等一連の流れの中で、学生の自主的な取組を促すことができた。 ・昨年度は全国大会出場者が出たが、今年度は九州大会での入賞には至らなかった。	・農林技術開発センター等の指導、助言を得ながら、スマート化やグリーン化等のトレンドとなる技術に取り組むことで、学生の興味、関心をさらに高める。	
		◎農家等派遣研修の評価(3.5点以上の割合%) 受入農家からの一定水準以上の評価 1年生：70%以上 【R6実績：74%(A)、R5実績：90%(A)】 2年生：80%以上 【R6実績：83%(A)、R5実績：68%(C)】	75.9% 87.2%	A A	・研修先とのミスマッチを防ぎ、各学生の研修目的を明確化させるために、面談による具体的な研修先の検討や事前指導を徹底した。この結果、1、2年生ともに充実した研修を行うことができた。	・就職・雇用就農、就職など、進路に応じた研修を実施することにより、研修先との関係が卒業後も継続するような取組を実施していく。 ・優れた農業経営及び生産技術や流通現場の状況について、学生自らが体験するという本研修の趣旨を維持しながら、受入れ農家の家庭環境の変化等に対応した研修を検討する。特に、宿泊を受諾する受け入れ農家が減少していることから雇用就農、就職希望の学生は通いの研修を主体とするよう検討する。	
3	就農に向けた進路指導の強化(教務課、養成部)	◎就職予定者及び農業技術者 90%以上(35名) 【R6実績：90%(A)、R5実績：97%(S)】	90%	A	・卒業予定者の進路は、即就農11名、兼業就農2名、雇用就農9名、農業関係就職13名、その他就職3名、未定1名。 ・就職予定者に対しては、家庭訪問や各地域就農支援センター(振興局)と保護者との面談、就業計画策定支援を行った。 ・就職希望者に対しては、JA等及び農業法人説明会を開催するとともに、農業法人等にインターンシップを働きかけ延べ52名が参加しマッチングにつながった。	・早期の進路指導を指導してきたが、複数社インターンシップに参加するなど、なかなか就職先を決め切れない学生が見られた。 ・1年次からのインターンシップの促進、農家等派遣研修での研修先として、マッチングできそうな農業法人等へ誘導。 ・保護者との面談を通して、保護者からの学生への働きかけを促進する。	優
		○就職希望(雇用就農含)学生のインターンシップ参加率 110%以上 【R7から目標設定】	186%	S			
4	安全意識を持った農業機械利用者の養成とながさき農業オープンアカデミー開講(研修部)	○農業安全研修会 開催回数 30回以上 【R6実績：34回(A)、R5実績：39回(S)】	34回	A	・農作業従事者に対する講習・講演による農作業安全研修8回と、農大で実施したトラクター(大特・けん引)研修26回の合わせて34回と計画以上の実施ができた。 ・5~9月の研修では熱中症対策を併せて実施した。	・トラクター(大特)及びけん引操作研修については、受講者は減少傾向にあったが、新規農業法人の増加や農作業安全の意識の高まりから、今年度は受講者が増加したことから、継続して、安全講習を実施し農作業事故防止の推進を行うことが必要。 ・熱中症の発生リスクも高くなっていくことが予測されるため、夏場の講習では熱中症対策の指導も徹底していく。	優
		○オープンアカデミーの内容充実 アンケートで満足と回答80%以上 【R3実績：100%(S)、R4実績：92%(A)】	95.5%	S	・7~10月に計5回を開催し、意欲ある農業者14名の受講者が自身の経営計画を作成、発表まで行った。 ・受講生は、経営計画を作成、発表することや講義の受講で、効率的に経営理念の重要性や経営分析、戦略立案など経営に関する知識を理解、習得できた。さらに、受講生どうし自身の経験に基づく意見交換を実施するなどお互いに刺激を受けるとともに仲間づくりができたことなど、受講者全員から満足度が高い回答を得られた。 ・近年、受講者が減少しており、また、内容の充実、開催時期の見直し等の意見があっいるため、次年度に向けて大幅な見直しを行う。 ・具体的には、リカレント教育の視点に立ち、農大生、新規就農者も受講対象に加え、今までよりも更に経営感覚の養成に主体を置いた内容としたい。また、振興局でのフォローを充実させ、真に地域農業の担い手となりうる人材の育成に努める。		

目標の難易度：◎特に困難 ○通常 △容易に達成

●評価に関するご意見、ご助言等を記入ください。

【重点目標1に対して】

- ・学校のPRにInstagramは有効だと思う。県立大学企画広報課がそのノウハウを持っているので参考に問い合わせてみてはどうか。
- ・Instagramであれば農業大学の情報を提供でき、目に留まることも期待できる。そこからホームページに誘導できる。
- ・学生募集に係る自己評価が低いようです。新たな発想や実践による改善を期待しています。

【重点目標2に対して】

- ・農家派遣研修における農家宿泊を無くし、通いに切り替えることは時代の流れ的に仕方がないことかもしれない。
- ・農家派遣研修先確保に向け同窓会としても協力できるような働きかけしていきます。

【全体的に】

- ・校外に対して積極的な取組・活動を展開されている点は高く評価できると思います。何よりも実践を通して学んだ知識や技術は確実に成果に繋がるものと信じております。
- ・農大の活動や取組、そして先生方の日頃のご指導に心から敬意を表します。
- ・これからも高校生が憧れる存在であり続けてください。
- ・農大と農業高校とが連携した研究活動は素晴らしい取り組みである。継続していただきたい。